（別紙様式４－２）　　（特別支援学校用）

# （ 熊本かがやきの森支援 ）学校　平成２９年度学校評価計画表

| 1　学校教育目標 |
|---|
| 安全・安心な教育環境づくりに努め、関係機関と連携しつつ、一人一人が持てる力を主体的に精一杯発揮できる教育を行う。 |

| 2　本年度の重点目標 |
|---|
| 【つなぐ】（繋ぐ、引き継ぐ、継承する）<br>・肢体不自由教育、重度重複障がい教育の専門性を維持、向上していく。<br>※目標実現のために、向上心を持ってさまざまな研修を行っていく。<br>・個別の教育支援計画等の確かな引継ぎと指導支援の継続<br>・防災に関する「熊本地震」の経験をつなぎ、今後に生かす。<br>【つながる】（繋がる、連携・協力）<br>・地域（医療、幼保小中高、自治体、自治会、福祉、給食等）とつながる。<br>※特に、近隣校との交流及び共同学習の更なる充実を図る。<br>・保護者との連携、協力体制の強化<br>・学部間、分掌部間、学部と分掌部間、事務部等とのスムーズな連携・協力<br>【つくりだす】（創造する、作る）<br>・新たな仕組みづくり<br>※教職員一人一人が校務改善を意識し、業務内容の合理化・簡素化を図り、かけるべきところに十分な時間をかける。<br>・教材教具の作成を通して学んでいく。<br>・常にお互いを思いやる気持ちで、風通しの良い組織づくりを目指す。 |

| 3　自己評価総括表 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 評価項目 | | 評価の観点 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 成果と課題 |
| 大項目 | 小項目 | | | | | |
| 学校経営 | 学校改革 | 19:30 には退勤できるよう、計画的・効率的・協力的な業務遂行ができたか。 | 19:30 には全職員の退勤がほぼ完了できるようにする。<br>第 1、第 3、第 5 金曜日を定時退勤日とし、リフレッシュする時間を確保する。 | 個々の職員に計画的な業務遂行を促し、業績評価項目に時間外勤務縮減に向けた目標を設定し、意識した行動がとれるようにする。<br>仕事量のバランスに配慮した業務分担を行い、各学部、分掌部業務の整理・精選を行う。<br>業務や行事の削減を図り、16:00 以降の執務時間の確保に努める。 | B | 評価項目に目標を位置付けたことで、ほとんどの職員が縮減をより意識した業務を遂行することができた。<br>職員会議等での提案・復講を職員朝会で行ったり、校務支援システムを活用したりすることで、定例の会議の開催数を減らし、朝や放課後の時間を学部や個人で有効に使用できるようなった。<br>定時退勤達成率は 82.8%であった。 |
| | 危機管理 | 全職員が、日ごろから危機管理意識を持ち、不測の事態に備えることができたか。 | ヒヤリハット事例の共有や緊急時対応シミュレーションを実施し、危機管理意識を高める。 | ヒヤリハット事例一覧表を活用し、定期的に周知していく。また、各学部で緊急時を想定し、定期的にシミュレーションを実施する。 | B | 各学部でヒヤリハット事例を報告したり、ヒヤリハット集を回覧したりして事例の周知が定着してきた。ヒヤリハットに関する職員の意識が高まり、小さな事例が多く報告された。<br>また、学期ごとに緊急時 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | を想定したシミュレーションを実施することができた。場面に応じた動きの確認を行うことで、万一の際に備えることができた。 |
| | 広報 | 本校の特色や良さを、広く発信できたか。 | ホームページを定期的に更新し、広く発信する。 | 情報教育部が中心となり、ホームページ掲載計画の作成とより見やすい学校要覧作りを行う。 | A | ホームページは毎月１回、各学部の学習や行事等について更新し、情報発信することができた。学校要覧については内容を見直し、新年度に向けて修正を行う。 |
| | 教育課程 | 教育課程を適切に編成し、教育活動の充実・改善につなげることができたか。 | 児童生徒一人一人の持てる力を伸ばすことのできる教育課程を編成する。 | 教務部が中心となり、前期、後期末に実施状況をまとめ、各学部、分掌部と連携し、改善を図る。教育課程検討委員会を定期的に実施し、学校全体を見通した検討を行う。 | A | 教育課程検討委員会を４回実施し、実施状況のまとめ、見直し、次年度に向けての検討を行った。併せて、アンケートの実施、年間指導計画の見直し等も行った。今後、新教育課程及び新たに導入した様式について実施状況を分析し、改善を図ることが課題である。 |
| **授業の充実** | 教員の専門性向上 | 重度重複障がい教育に必要な専門的知識についての理解を深め、適切な指導・支援ができたか。 | 研修等に積極的に参加し、児童生徒の安全安心な学校生活づくりに必要な専門的知識を深める。 | 研修部が中心となり、職員が研修等に効果的に参加できるよう、計画し、執行する。また、年間を通してＰＴ・ＳＴによる研修を実施する。指導内容については、各学部や学校全体で共有するなど、汎化できる機会を設ける。 | A | 年間を通して、各研修会への参加を計画的に行うことができた。また、専門家の活用については、各学部の状況や課題に応じることができるように計画し、より深化させることができた。 |
| | よりよい授業づくりの追求 | 重度重複障がいの子どもたちのよりよい授業づくりに取り組むことができたか。 | 確実な実態把握や適切な目標・学習内容の設定等の授業評価を行い、授業の改善を行う。 | 研修部が中心となり、講師招聘研修会を行い、授業づくりについての知識を深める。<br>全職員が事例検討を行い、授業改善に取り組み授業力を高める。 | A | 重度重複障がい教育に先進的な取組をしている福山・諫早の両校から講師を招聘して研修会を行い、「授業づくり」や「教科と自立活動の違い」等、本校が数年来課題としていた内容について、知識を深めることができた。これらを基に、本校として整理し、よりよい授業づくりにつなげていく。 |
| | 児童生徒に応じた保 | 児童生徒一人一人の健康に関する問題等 | 毎月の保健目標に応じ、児童生徒の実態に合わ | 健康安全部が中心となり、養護教諭や栄養職員と連携し | | 養護教諭と連携し、学部集会の時間を中心に保健指導を行うことがで |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 健指導の実践 | を取り上げ、意識したり自ら行動したりできるような取組ができたか。 | せた内容を設定して取り組む。 | て取り組む。<br>学部集会や学級、個別指導等健康課題に応じて指導場面を設定して取り組む。 | B | きた。体験的な活動やスライド等の活用で児童生徒が分かりやすいよう工夫した。しかし、保健目標が児童生徒には難しく、保健指導につなげにくい月もあった。 |
| **キャリア教育（進路指導）** | 個別の指導計画に基づく指導 | 児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた個別の指導計画を作成し、計画的に授業づくりを行うことができたか。<br><br>評価２期制への移行に伴い、前期・後期の日程で個別の指導計画を作成し、計画的に授業づくりを行うことができたか。 | 実態に応じた年間目標と年間計画を立案し、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた授業づくりを行い、PDCA サイクルを用いて見直しや改善を適切に行う。 | 進路指導部が中心となり、個別の指導計画作成等の研修を行い、各自で作成する。作成に当たっては、目標設定シートや目標設定会議等を行い、複数の教師で考えていく体制をとる。<br>各期に２度の保護者面談を実施し、児童生徒や保護者の思いを受け止め、授業計画や児童生徒の成長の様子を伝え、児童生徒、保護者と共に授業づくりができるようにする。 | A | スケジュールに沿って個別の指導計画を作成し、計画的に評価、改善し、授業改善につなげることができた。<br><br>年度当初にキャリアプランに関わる研修会を実施し、全職員で共通理解したことで、スムーズに評価２期制への移行を行うことができた。 |
| **生徒（生活）指導** | 交流及び共同学習の推進 | 児童生徒が、交流活動を通して、交流相手と楽しくふれ合うことができたか。 | 各学部で交流を実施し、楽しくかかわれるように工夫する。 | 学校生活部が中心となり、相手校及び地域の交流担当者と連携し、時期、回数、内容等について打ち合わせを行うとともに、関係職員が共通理解を深めて取り組むようにする。 | B | 概ね楽しみながら交流を行うことができたが、反省や気付き等を担当間でもっと共有できれば良かった。<br>子ども達は大人を見ている。大人が子どもにどのように接するかを皆で共通理解することが大切である。 |
| **人権教育の推進** | 児童生徒の人権尊重 | 一人一人の確かな学びを大切にし、自尊感情・自分らしさを発揮できる環境をつくることができたか。 | 児童生徒が自発的に行動できる活動や自己選択、自己決定できる場を設ける。 | 学部毎に児童生徒の発達段階や生活年齢に配慮した人権教育に関する取組を行う。 | A | 講師招聘研修を行い、「人権尊重の精神に立った学校づくり」のテーマのもと職員間で一人一人の確かな学びを大切にし、自尊感情・自分らしさを発揮できる環境づくりについて研修を行った。 |
| | 命を大切にする心を育む指導 | 児童生徒が自己有用感、自己肯定感を味わうことのできる指導を行うことができたか。 | 一人一人が自分の力を発揮し、成し遂げたり、集団の中で自分の役割を果たしたりする。 | 一人一人の実態把握を行い、できる活動を準備する。<br>集会や係り活動で児童生徒に応じた役割を準備する。 | B | 学部集会の中で生徒達のがんばりを紹介し、お互いの良さや得意なことを知る場を設けたり、分教室では人権週間の取組としてコッコロ隊を招き、かがやき人権集 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 会を実施した。 |
| **いじめの防止等** | いじめ問題への対応 | いじめ未然防止及び早期発見に全職員が一体となって組織的に対応することができたか。 | すべての児童生徒が安心して学校生活を送ることができるように情報提供等を行い、いじめのない環境をつくる。 | いじめ防止等対策委員会が中心となり、全職員でいじめに関する情報を共有するとともに、家庭、外部専門家と連携していじめ防止に努める。 | B | 児童生徒が安心して学校生活を送ることができるように各学部で研修を行い、いじめ防止等対策委員会での助言を基に実践を行い、外部専門家と連携しながらいじめ未然防止及び早期発見の取組を行うことができた。 |
| **地域支援** | 教育相談の充実 | 幼稚園、保育園、学校、その他関係機関の職員や保護者からの教育相談のニーズに十分に対応することができたか。 | 教育相談の依頼に対する日程調整や事前の打ち合わせ等を適切に行い、依頼者が満足感を得られる内容となるようにする。 | 相談依頼に対する窓口を明確にして、日程調整の方法を一本化し、管理職との連絡・相談を確実に行う。<br>主に教育支援部会の中で、相談を受けた事例について紹介し、支援内容の協議を行い、アイデアを出し合うことで教育相談に関する専門性の向上に努める。 | B | 小中学校への巡回相談は具体的な指導支援の情報提供ができたことで依頼も増えた。夏休みには巡回相談を行った学校の担当者が集まり情報交換する場を設け好評であった。来校相談で継続依頼のケースは月１回実施した。小中学校とのやり取りも充実しつつある。校内全体への周知や紹介が不足しており、今後、情報提供の方法を工夫したい。 |
| **地域連携（ｺﾐｭﾆﾃｨ･ｽｸｰﾙなど）** | 学校運営協議会 | 災害における対応について地域と情報を共有できたか。 | 年に３回実施予定の学校運営協議会において、本校の取組について話し合い、充実を図る。 | 学校防災マニュアルの検討をする。<br>熊本地震の際の課題を整理して、情報を共有する。 | B | 学校防災マニュアルを作成するとともに、学校運営協議会において、本校の防災教育、防災管理や福祉子ども避難所になった際の課題について情報を共有することができた。 |
| | 地域との交流 | 地域の方々とふれ合うことができたか。 | コンサート等を実施し、一緒に鑑賞する場を作る。 | ７月にオーケストラを本校に呼び、地域の方々も招待して一緒に鑑賞する。 | B | 日本フィル管弦楽団の方が４人（カルテット）来られ、地域の方も３０人ほど招いて、一緒に音楽を鑑賞する等、交流を深める機会となった。 |

| ４　学校関係者評価 |
|---|
| ○職員の努力で、保護者からは高い評価が得られているが、職員の評価が厳しい傾向にある。学校評価の分析方法として、年齢や性別毎に分析し統計を出すことで、若い職員がもっと頑張らなければならないと考えているのか、ベテランがより一層高めるために厳しく評価しているのかが分かるのではないか。次年度は分析方法を工夫し、課題に対応した対策を講じてほしい。 |

| ５　総合評価 |
|---|
| ○行事前等、退勤時間が遅くなる職員もいたが、メリハリをつけながら計画的な業務遂行に努めたり、職員会議等での提案・復講を職員朝会や校務支援システムを活用したりすることで、定例の会議の開催数を減らし、朝や放課後の時間を学部や個人で有効に使用できるようになってきた。<br>○危機管理への取組について保護者からは高い評価を得ているが、職員の意識としては、熊本地震を経験し、より一層のマニュアル検討や環境整備等が必要と考え、不十分と評価した職員が多かった。 |

○自立活動を主とした教育課程を編成し、児童生徒一人一人の持てる力を伸ばすことができ、保護者からも一定の満足度が得られた。さらに的確な実態把握と目標の明確化を図り効果的な学習の積み重ねをねらっていく必要がある。
○スーパーティーチャーによる校内外の支援を行った。派遣要請を受けた学校からは、効果が報告されたが、校内においても授業改善の支援等を行い、児童生徒の自発行動を引き出すやりとりの重要性についての理解が深まり、実践力が向上した。

| ６　次年度への課題・改善方策 |
|---|
| ○１９時００分に退勤できるよう、計画的な業務遂行を進めるとともに、時間外勤務時間数が多い職員の業務内容を見直し、他の職員で分担できるように調整できるものは行う。各学部、分掌部業務の整理・精選を行い、授業準備の効率化、業務の削減を図る。夏季休業中は、まとまった休みが取得できるようにする（学校閉庁日の設定）。時間外勤務記録表への入力徹底またはタイムカードの導入を行う。第１、第３、第５金曜日を定時退勤日として、リフレッシュする時間を本年度以上に確保する。<br>○実際的な避難訓練や備蓄食試食会等の取組の充実・深化と防災マニュアルの見直し・改善を行う。<br>○実践を積み重ねながら、学校及び学部教育目標を検証し、改善に取り組むことで、より一層教育の内容（育成を目指す資質能力・目指す児童生徒像の明確化・卒業まで身に付けてほしい力の検討）の明確化を図る。他分掌部と連携しながら、カリキュラムマネジメントをより一層進めていく。<br>○分掌部やカリキュラムマネジメント検討委員会の中で、教育課程の変更に伴う通知表及び個別の指導計画の様式を変更することができたが、肢体不自由の重度重複障がい児を教育の対象とする学校として、さらに特色あるキャリアプランの様式検討を行う。<br>○チェックリストを活用し、実態把握を複数の職員で行い協議を重ねていく取組を通して、課題設定や授業づくりについての専門性向上を図っていく。 |